

1 目的

屋久島では、少子高齢化に伴い、10～20年後の大幅な農業者減少が見込まれる。地域農業の維持・発展のためには、新規就農者である我々が地域農業を支えていく担い手とならなければならない。そこで、世界自然遺産屋久島の有利性を活かした果樹経営の確立するため、視察研修や経営の勉強会を通じて、会員個々が農業者として資質向上を図り、将来の経営ビジョンの作成とその達成のための手段等を検討した。

2 実施状況

(1) 視察研修の実施 (平成26年1月)

果樹の先進地である愛媛県宇和島市、西予市を視察した。宇和島市ではブラッドオレンジの産地化を目指し、生産、加工、流通を地域一体となって総合的な取り組みが行われていた。

屋久島でも年間通じた収入を得るため、新規品種の導入や6次産業化、農商工連携の取り組み等が必要なことを理解できた。会員の中には、視察した食品業者との連携により、たんかんジュースの試作に取り組み始めた。また、西予市の果樹の受託作業法人では、作業受託の他、墓管理や地域のイベントの援助等行っていた。地域の維持や荒廃園対策、新たな雇用も生み出しており、今後の屋久島の地域農業・営農のあり方の参考になった。



(2) 経営・技術の勉強会の実施 (平成25年4月～平成26年3月)

今後の経営に必要な経営力を身につけ、経営者としての判断・決断ができる資質、能力、態度を育むため勉強会や現地検討会を開催した。自分の将来について、先代のやってきたことを踏襲するだけでなく、何か新しい事を始めなければならないと各人感じており、経営ビジョンの作成や戦略づくりに取り組んだ。



3 今後の課題、取り組み

加工品販売やネット通販などやってみたいことはあるが、まだ漠然としたイメージしかない。今後も引き続き視察研修や勉強会を行いながら、将来ビジョンや経営戦略を作成し、加工品販売やネット通販などに取り組み、屋久島という強みを活かした各人の経営モデル確立に努めたい。